

前期

〔E類ソーシャルワークコース 対象〕

小論文問題冊子

令和7年度  
一般選抜前期日程  
私費外国人  
帰国生

（注意事項 解答は別紙の解答用紙に記せ。解答用紙は一枚である。

解答用紙には受験番号を記入せよ。）

次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

## 福祉はいらない、直接お金を与えればいい

生活保護や母子家庭手当て、就学援助、幾多ある福祉プログラムを全てやめる。そのかわりに全ての国民に、例えば一律年間一五〇万円の金を与える。それがベーシックインカム。ニクソン大統領はその実施をもくろんでいた。

### ホームレスに三〇〇〇ポンドを給付する実験

二〇〇九年五月、ロンドンで一つの実験が行われた。被験者は一三人のホームレス男性で、彼らは路上生活のベテランだ。何人かは四〇年近くにわたって、ヨーロッパの金融の中心であるロンドンの「シティ」の冷たい舗道の上で眠る生活をしてきた。警備費、訴訟費用、社会福祉費等々、これら一三人のトラブルメーカーのために、四〇万ポンド「当時1ポンドは約一五〇円」以上の公金が使われていた。それも毎年、である。

このままでは、市の行政サービスや慈善団体の負担があまりにも大きい。そこで、ロンドンを拠点とする援助団体ブロードウェイは、画期的な決定をした。「今後、シティに暮らす一三人の生粋の浮浪者は、VIP待遇を受けることになる。フード・スタンプやスूपの炊き出しやシェルターとはもうおさらばだ。彼らはもつと劇的で即時的な救済を受けるのだ」と。

これらの路上生活者は、フリーマナー(自由に使えるお金)を給付されることになったのだ。

正確に言えば、彼らは小遣いとして三〇〇〇ポンドを与えられるが、その見返りに何かをする必要はない。使い道は各自の判断にまかせる。アドバイザーに相談したければ、そうしていいが、それも自由だ。そのお金には紐が付けられているわけではなく、

煩わしい質問もなしだ。

唯一問われるのは、「自分には何が必要だと思うか?」ということだった。

〈中略〉

フリーマナーは人を怠惰にするのか?

貧乏人はお金の扱いが下手だ、という見方は広く浸透しており、自明のことのようにも思える。そもそも、お金の使い方がうまくければ、貧乏になるはずがない。彼らは新鮮な果物や本ではなく、ファストフードやソーダにお金を使うにちがいない、とわたしたちは推測する。そういうわけで、彼らを「支援」するために、あまたの事務手続きや登録制度や大勢の検査官を必要とする独自の支援プログラムがいくつも施行されてきた。そのすべては、「働きたくない者は、食べてはならない」(テサロニケ人への第二の手紙 三章一〇節)という聖書の教えを軸としている。近年、政府による支援は、ますます就労重視の方向に進んでいるが、対象者は、仕事への応募、職場復帰プログラムへの登録、強制的な「ボランティア」作業を求められる。そうした支援は、「福祉から就業へ」の移行だと賞賛されているが、その下敷きとなっているメッセージは明らかだ。すなわち、フリーマナーは人を怠惰にする。

だが、そうではないという証拠が揃っている。

バーナード・オモンディを紹介しよう。西ケニアの貧しい地域に暮らす彼は、何年も石切り場で働き、一日二ドルの稼ぎを得ていた。だがある朝、奇妙なメールが届いた。「そのメールを見たとき、ほくは跳びあがったよ」とバーナードは回想する。五〇〇ポンドが彼の銀行口座に振り込まれたというのだ。彼にとってそれはほぼ一年分の稼ぎに相当した。

数カ月後、『ニューヨーク・タイムズ』紙の記者がバーナードの村を訪れた。村人全員が宝くじに当たったかのようだった。村には現金がどっさりあった。しかし、それで酒を買おうとする人は一人もいなかった。そのかわり、家々は修繕され、小規模のビジ

ネスが始まっていた。バーナードはあの金で新品のインド製のバジャジ・ボクサー・オートバイを購入し、バイク・タクシーの運転手として日に六〜九ドルを稼ぐようになっていた。彼の収入は三倍以上になった。

「お金をもらったことで、貧しい人々は選択の自由を得たんだ」とマイケル・フェイは言う。フェイは、バーナードに「たなぼた」をもたらした支援組織ギヴ・ディレクトリの創始者だ。「それに、実を言えば、貧しい人々が何を必要としているかが、ほくにはよくわからなかった」。フェイは人々に魚を与えたわけではなく、魚の獲り方を教えたわけでもない。彼は、貧しい人々が何を必要としているかを本当に理解しているのは、貧しい人々自身だという信念のもと、彼らに現金を与えたのだ。わたしが、なぜギヴ・ディレクトリのウェブサイトに心訴えるような映像や画像がほとんどないのか、と尋ねると、フェイは、過剰に感情に訴えることはしたくないから、と言った。「ほくたちのデータは、十分確かだ」

(出典…ルトガー・ブレクマン(訳…野中香方子)『隷属なき道〜AIとの競争に勝つ ベーシックインカムと一日三時間労働』、  
文藝春秋、二〇一七年五月二五日、一部改変)

問 右の文章を読んで、「福祉はいらない、直接お金を与えればいい」といった考えについて、一〇〇〇字以内(句読点を含む)であなただの考えを述べよ。